

69 奈良交通のバスロケーションシステム

—今、どこを走っているのが分かります—

お正月はいかがでしたか。おじさんの所には、東京に住んでいる長男や二男の家族が帰って来ました。今年は、去年4月に生まれた孫もなかま入り、一層にぎやかなお正月になりました。みんなそろっての初詣、いつもは自分の車ですが、お酒の入っているお正月はもちろん、電車・バスです。そんな人が多いようでバスは混み合っていました。

近鉄奈良駅前には停留所が13か所もあり、1番乗り場からは、①市内循環外回り、②中循環外回り、③高畑町行き、④春日大社本殿行きが出ます。時刻表によると、ここから平日の7時台に発車するバスは18台、約3分に1回、ほんとうにひっきりなしの発車です。これをさらに便利にしているのが、奈良交通バスロケーションシステムです。春日大社に行くバスが、どこを走っているのが分かります。「今、JR奈良駅前を出たな。もうすぐだな」とか「その次のバスは大森町の手前だ」などと分かるようになっていっています。



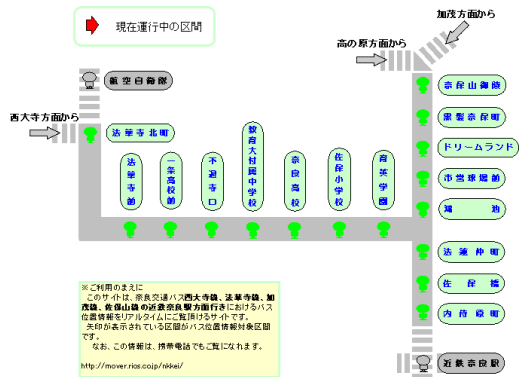
上の写真が近鉄奈良駅前の停留所に設置されているもので、下は奈良西大寺線の佐保小学校前の停留所にあるものです。

でも、これだけではありません。家に居ても、バスがどこを走っているかが分かります。奈良交通のホームページから「路線バス」に進むと、「バス位置情報(近鉄奈良駅方面)」があり、ここでは 西大寺線、法華寺線、加茂線、佐保山線の近鉄奈良駅方面行きのバスの位置が分かります。下の図がそれです。共に実験中ということですが、王寺シャープ線でも王寺駅北口からシャープ前までの 23 か所のバス停のどこを走っているかが分かるのです。



これから多くの路線に導入されていくのでしょうか。こうしたシステムは携帯電話からも利用できるそうで、「まだゆっくりできる」とか「少し急がないと…」などに対応でき、ますます便利になりそうです。

便利になった公共交通機関、道路の混雑を防ぎ、省エネのために活用したいですね。では、今年もよろしくお祈りします。(平成 25 年 2 月・中 1 の美紀さん宛て)



(平成 25 年 2

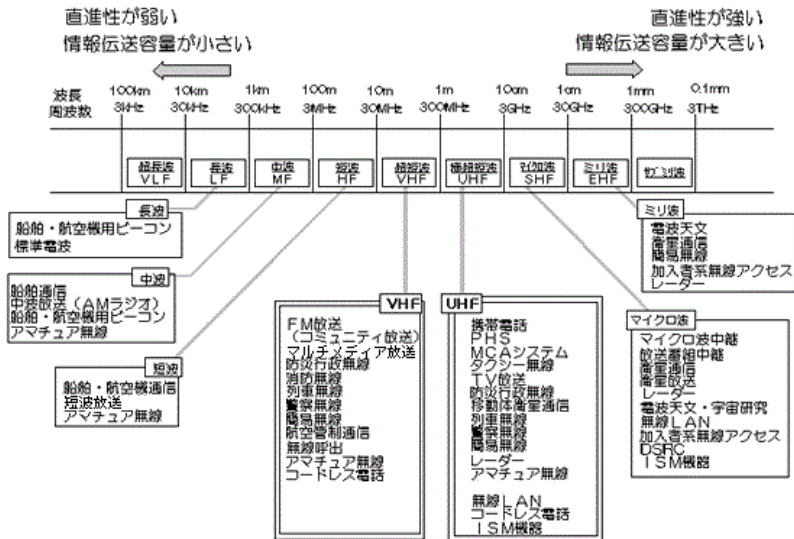
理科のワンポイント「電波の活用」

テレビやラジオ、携帯電話などいろいろなことに使われているのが

電波です。名前に「波」がついているようにこれは電界と磁界の波です。目に見えない波ですが、波ですから波の長さがあります。これを波長と言います。電波よりもっと波長の短いものが光、さらに短いのがX線やγ（ガンマ）線です。これらをまとめて電磁波と言います。

最初の頃、通信に使われたのは波長の長い長波でした。しかし、波長の短い短波がより遠いところに届くことが発見されました。それは電波を使って通信を楽しみ、技術改良をしてきたアマチュア無線家とよばれる人たちでした。

「短波はすごい」、短波は瞬く間に無線通信に使われるようになりました。アマチュア無線家は「もっと波長の短いのはどうなんだ」と実験を繰り返しました。そして、無線通信は短波からもっと波長の短い超短波へ、さらに極超短波へと広がっていきました。



表は、総務省の示している「周波数帯ごとの主な用途と電波の特徴」です。これを見ると、私たちはずいぶん電波のお世話になっているこ

とが分かります。

電波は限りある貴重な資源ですが、新しい電波の発見と活用の功績が認められ、アマチュア無線には多くの電波が与えられています。屋根に大きなアンテナを立てたり、自動車にアンテナをつけたりして通信を楽しんでいる人を見かけたことはありませんか。免許を取得し電波を使って通信したり実験したりしている人たちなのです。

私も、電話級、電信級の2つの無線技士の資格を持ち、JA3CGNというコールサインを与えられたアマチュア無線家でした。しかし、今は閉局したままになっています。